



生涯就業力を磨く
恵泉女学園大学
KEISEN UNIVERSITY

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS



SDGs 活動報告書 2020



恵泉フェロシップ給付緊急奨学金

恵泉フェロシップ給付緊急奨学金として入学後の家計の急変により経済的に修学困難となった学生に対し最大 70 万円を補助しています。2020 年度は厳正な選考 5 名が採用され計 472,500 円が給付されました。



私費外国人留学生授業料減免制度奨学金

私費外国人留学生授業料減免制度奨学金 学部・大学院の正規課程に在籍する私費留学生（在留資格「留学」）に対して、年間授業料の 1/2 相当額（学部：375,000 円、大学院：345,000 円）を補助しています。



アドバイザー制度：学修支援サポート

所属しているゼミの教員がアカデミックアドバイザーとなり、毎学期行われる個人面談の中で学習上・生活上の問題について、相談したり助言を受けたりすることができるアドバイザー制度があります。該当する学生の状況の把握を行い、適宜必要な支援について学生課を通じてサポートを行っています。

園芸療法：地域社会への支援

正課教育では社会園芸学科 3,4 年次選択必修科目「園芸療法実践応用」において、多摩市内の老人保健施設デイサービスおよび特別支援学校との交流実習を実施しています。

正課外教育の一環で「恵泉土曜園芸クラブ」として多摩市、多摩市社会福祉協議会にご協力をいただき、園芸文化研究所の研究助成により立ち上げた大学内の学生主体で運営する園芸療法活動を行っています。異世代交流を楽しみながらみんなの居場所になり、地域の保健師、ケアマネージャーと連携させていただき地域貢献事業に発展しています。





学生食堂・軽食堂

D棟2階にある学生食堂では常設メニューの他、日替わりランチ、パスタ、カレー、ラーメンなどを提供しています。肉や魚、野菜などの栄養バランスを取り入れたメニューなど、幅広い選択肢から利用者に選んでいただいています。



一人暮らしの会

「一人暮らしの会」は学年担任会が主催する一人暮らしの学生を集めて状況の把握を確認し、同じ境遇の仲間同士で交流を持つプログラムです。上級生から大学生活でのアドバイスを提供したり、暮らしに関わる知恵を共有したり、大学からは備蓄食料を提供するなどサポートを行っています。

生涯就業力 STEPⅢ（多摩学）

2020年度の2年次必修科目「生涯就業力 STEPⅢ」における「多摩学」では、農業者であり、多摩市農業委員でもある青木幸子氏を講師として迎え、講話と意見交換をする場を設けており、地域の農業者とのつながりを大切にしています。

竹チップ段ボールコンポスト

恵泉女学園大学ガーデニングクラスルーム研究会が開発した「竹チップ段ボールコンポスト」は生ごみをたい肥化する、生ごみ処理容器です。

2016年度から町田市と連携して、この段ボールコンポストの普及に努めています。その他展示会でも出展し、地域を育むコミュニティガーデンを目指しています。



自然循環型の有機農業の実践

教育農場では、落ち葉や竹チップ、雑草などの地域の有機物を利用して、自然の循環機能を活用した資源循環型の有機農業を実践しています。海外からの資源に依存しない農業の実践は持続可能な食料生産を促進するもので飢餓ゼロを促進するものです。



ヘルスケアサービス

婦人科医による健康相談を隔週木曜日に行っており、学生は無料かつ予約不要で利用できます。病院に行くほどではないけれど、何となく気になっていること、病院に行かなくてはと思いながらもそのままにしている時などでも気軽に利用することができます。



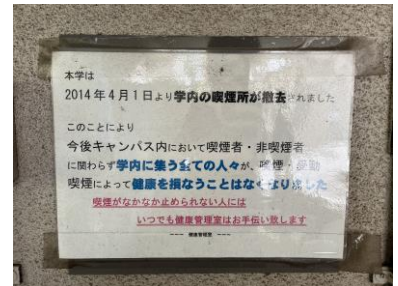
メンタルヘルスサポート

学生の心身の状態をサポートするために、カウンセリングルームや健康相談室を設置しています。カウンセリングルームでは学生の皆さんが充実した学生生活を送れるようお手伝いをしています。相談は臨床心理士3名が担当します。相談内容によっては、解決できそうな機関や専門家への紹介も行っています。2020年度はオンラインやメールでの対応を実施しました。



敷地内全面禁煙

キャンパス内は2014年より敷地内全面禁煙となっています。本キャンパスにおいては、喫煙者・非喫煙者に関わらず、学内に集うすべての人々が喫煙・受動喫煙によって健康被害を受けることはありません。



有機園芸の実践

教育農場や学内のガーデンで化学肥料や化学農薬を使用しないことは、これらに起因する水質汚染や大気汚染、その化学物質に起因する健康障害を抑制することになり、人々の健康や福祉につながります。



Units
78

Graduates
167

Starting
a degree
303

First-generation
students
12.9%

子育て支援員研修

「子育て支援員」とは、すべての子どもにより良い発達環境を保障し、親の子育てを社会の皆で支えることを目標とした『子ども・子育て支援新制度』の発足と同時に、厚生労働省認定資格として制定されたものです。

この「子育て支援員」制度は、恵泉女学園大学長の大日向雅美が代表理事を務めている NPO 法人あい・ぼーとステーションが 2005 年から実施してきた「子育て・家族支援者」養成講座がモデルとなったものです。

老若男女共同参画で地域の育児力向上をめざして、地域の方々が保育や子育て支援について学びを深め、一時保育をはじめとした地域のさまざまな子育て支援に携われる仕組みとなることを目的とした講座です。今回、2 年余りの準備期間を経て、2021 年 2 月 10 日に開講式を迎えました。



恵泉土曜園芸クラブ

2016 年度から学内で「恵泉土曜園芸クラブ」と称して地域の在宅高齢者や障がい者を対象とした学生主体の園芸療法活動や、学生が地域の高齢者施設を訪れて園芸療法活動を提供してきました。

2020 年度は ZOOM や動画を工夫して活動を継続しました。



オーガニック・エディブル・コミュニティガーデン多摩

社会園芸学科が提案した『オーガニック・エディブル・コミュニティガーデン多摩』計画が企業の助成を受けて、近隣の団地で高齢者など住民同士のつながりを創出する取り組みをスタートさせました。花壇、竹チップコンポスト、雨水タンク、太陽光パネル等を設置、有機栽培で食べられる多種多様な植物の植栽などをおこなっています。この取り組みは 2020 年 10 月 22 日に第 31 回緑の環境プラン大賞コミュニティ大賞を受賞しました。





Units
124

Starting
a degree
303

First-generation
students
12.9%

給付奨学金制度

人物・学業・勉強意欲に秀でた学生が経済的理由により修学が困難な状況にある場合に対し、安定した学生生活を送れるよう一定の金額を貸与、または給付する奨学金制度が設けられています。

学年担任制度

入学したすべての学生に、自分を成長させる健やかな学生生活を送ってほしいと考える恵泉は 2016 年度に学生のキャンパスライフを総合的にサポートするゼミ担当教員とは別の学年担任制によるアドバイザー制度を設置しました。以来、毎年各学科の専任教員が 10 名～20 名前後の学生を担当し、きめ細かな指導を行っています。



カウンセリングルーム

カウンセリングルームでは学生の皆さんが充実した学生生活を送れるようお手伝いをしています。相談は臨床心理士 3 名が担当します。相談内容によっては、解決できそうな機関や専門家への紹介も行っています。2020 年度はオンラインやメールでの対応を実施しました。



学食ラーニングコモンズ

学食ラーニングコモンズには、辞書や参考書、ちょっとした文具・事務用品、就活筆記試験（SPI）対策の参考書などを用意しているほか、専任の教員が常駐し、相談員として学生の学修をサポートする【相談コーナー】があります。

学習の相談だけでなく、学生生活の相談、英語専任教員による TOEIC、TOEFL 等の相談、就職活動、SPI 対策についてなど幅広く相談を受け付けています。





雨水利用

自然への慈しみを教育理念の一つに掲げ、「地球と人間と社会のあり方」をテーマに学ぶ人間環境学科を持つ本学では、開学当初より、環境問題とその実践的な解決策の探究に取り組んでいます。校舎建築にあたっては環境に配慮し、1988年の開学当時より雨水を貯水槽に貯蔵し、トイレの中水として利用しています。



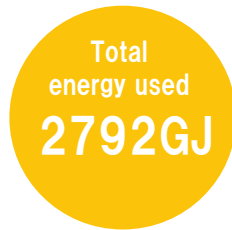
教育農場における有機農業の実践

化学肥料・化学農薬を使用しないことや牛糞たい肥などを適正に管理していることは、水路や地下水への化学物質（特に硝酸態窒素など）の流出・汚染を抑制することになり、安全な水の確保につながります。

里地里山活動

化学肥料や農薬を使用しない稲作や麦作などを実践している活動は、安全な水の確保につながっています。





太陽光発電システム

A・B・D棟屋根に太陽の光を直接電気に変換して発電する太陽光発電システムを設置しています。無尽蔵ともいえる太陽光を使用し、有害なガスや騒音、振動を出さないで地球に優しい発電システムです。バス乗り場横の壁面にあるパネルには、現在の発電電力・本日の発電電力量が表示されます。また、自然エネルギーの普及を目指す市民参加の取り組みに協力しています。



多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会

2020年8月22日一般社団法人多摩循環型エネルギー協会が開催した「多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会」に本学学生が登壇しました。一般社団法人多摩循環型エネルギー協会は本学教員が代表理事を務める組織であり、大学としても協力関係にあります。



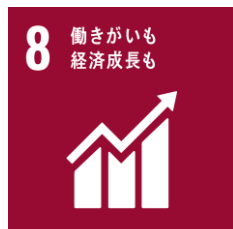
スクールバス

多摩センター駅から多摩キャンパスまで無料のスクールバスを運行しています。日曜・祝日、クリスマス、年末年始は運休しています。スクールバスとして日本で初めて、圧縮天然ガスを燃料にした大型バスを導入しました。ハイブリッドバスも運行しています。



教育農場における不耕起栽培

教育農場ではトラクターや耕運機の使用は非常に限定的であり、化石燃料に依存しない生産方法を実践しています。



職員代表会

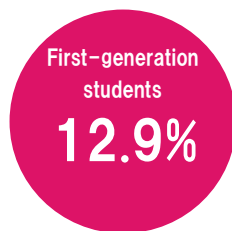
職員代表会は教育職員代表、一般職員代表の区分から職員の過半数により選挙された者から構成され、職員の就業に関する事項について職員の意見を問う場があります。

ハラスメント防止に関する方針

恵泉女学園大学では「就学就労するすべての学生及び教職員が能力と個性を自由に発揮できることを目的とし、大学における、性・ジェンダー、社会的身分・地位、人種又は国籍等に基づく不当な差別的取扱いその他のハラスメントの発生を防止するための教育及び啓発活動の展開並びにハラスメントに関する相談又は苦情の適切な処理についての必要な事項を定める」とし、少数民族、低所得の学生、非伝統的な学生、女性、LGBTの学生、障害のある学生など、社会的に受け入れられていないグループに対して平等に受け入れ、公平性を保つことができよう取り組んでいます。



Now writing



障がい者学生支援

恵泉女学園大学では1990年、全盲の学生1名の受入れに始まり、主として視覚障がいのある学生を恒常的に受入れてきました。2003年度より本学は学習支援制度を設け、障がいのある学生の学習支援を行っています。2020年度では聴覚3名、視覚1名、身体機能1名をサポートしました。

学内表彰式（ノートテイク表彰式）

ノートテイクとは、主に聴覚障がいのある学生が授業を受ける際に、先生が話している内容やその場で起こっていることを文字に起こすことで、“耳の代わり”の役割を担う学内支援のことです。2020年度は26名のノートテイクの活躍に対し、表彰式を行いました。総テイク時間は1373時間でした。



アドミッションポリシー

恵泉女学園大学は、本学の教育理念に共感し、本学での学びに高い意欲と目的意識を持つ学生を、年齢・国籍を問わず幅広く求めています。

ハラスメント防止に関する方針

恵泉女学園大学では「就学就労するすべての学生及び教職員が能力と個性を自由に発揮できることを目的とし、大学における、性・ジェンダー、社会的身分・地位、人種又は国籍等に基づく不当な差別的取扱いその他のハラスメントの発生を防止するための教育及び啓発活動の展開並びにハラスメントに関する相談又は苦情の適切な処理についての必要な事項を定める」とし、少数民族、低所得の学生、非伝統的な学生、女性、LGBTの学生、障害のある学生など、社会的に受け入れられていないグループに対して平等に受け入れ、公平性を保つことができよう取り組んでいます。

カウンセリングルーム・健康管理室

学生の心身の状態をサポートするために、カウンセリングルームや健康相談室を設置しています。カウンセリングルームでは学生の皆さんが充実した学生生活を送れるようお手伝いをしています。相談は臨床心理士3名が担当します。相談内容によっては、解決できそうな機関や専門家への紹介も行っています。2020年度はオンラインやメールでの対応を実施しました。





Units
256

Keisen Wild Rose Garden～野ばらの庭～

Keisen Wild Rose Garden は、学園創立 80 周年記念事業「花と平和のミュージアム」の一環として、同窓会と学園の協働で 2012 年度から南野キャンパスにつくり始めたものです（2020 年 3 月多摩キャンパスに移設）。世界で唯一のオーガニックローズガーデンで、オリジナルのバラを大陸別に配置し、現代のバラがどのように栽培されているかを学ぶことができます。オープンキャンパスの際に誰もが自由にアクセスすることができます。



花と平和のミュージアム

花と平和のミュージアムは、所蔵している写真、彫刻、園芸に関する書籍の利用申し込みに対応しています。

大学図書館

カリキュラムに合わせて様々な分野の資料を収集しており、蔵書数は約 16 万冊あります。新聞や雑誌も授業内容に即した選書を意識し、学生・教職員の勉強や研究がスムーズに進むよう資料と情報の面からサポートしています。視覚障がいのある学生のために点字室と対面朗読室があります。「図書館利用指導」「展示コーナー」「100 字でおすすめ」など様々な取り組みをしています。一般の方も公共図書館を通じて申し込むことで、大学内の図書を利用することができます。



農場見学ツアー

学園祭やオープンガーデンなどの公共イベントの際には、農場や庭園のツアーを実施し、持続可能な農業や花壇の管理について一般の人々に伝えています。



生涯就業力 STEPⅢ（多摩学）

2年次必修科目「生涯就業力 STEPⅢ」では、2020年度より「多摩学」と題した学びを導入しています。およそ300人の学生が3回に渡って、「多摩の歴史と自然」「ニュータウンの問題の再検討」「多摩の食と農業」「多摩発の平和」「多摩市の子育て支援体制」「多摩市の若者と未来の社会」などのテーマに分かれて、学んでいます。この学びは地域の課題、文化保全等に関心を持ちプロジェクトに発展するきっかけになることを期待されて位置づけられています。

スクールバス

多摩センター駅から多摩キャンパスまで無料のスクールバスを運行しています。日曜・祝日、クリスマス、年末年始は運休しています。スクールバスとして日本で初めて、圧縮天然ガスを燃料にした大型バスを導入しました。ハイブリッドバスも運行しています。



大学協力宿舎

清泉女学園大学は寮を保有していませんが、道路を隔てた向かい側にコーポM・コーポSの2棟の協力宿舎を設けています。また、館長の常駐している多摩市近辺の女子学生会館、また多摩市周辺の学生向け賃貸物件を紹介しています。





雑古紙トイレットペーパー

社会福祉法人共働学舎が作っている雑古紙のトイレットペーパーを利用しています。この雑古紙は再利用されることの少ない雑古紙を利用しており、環境に配慮しています。



竹チップ段ボールコンポスト

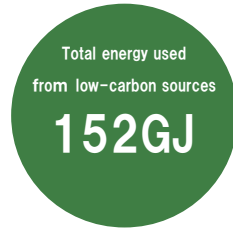
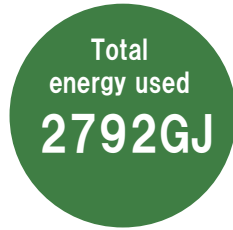
恵泉女学園大学ガーデンクラスルーム研究会が開発した「竹チップ段ボールコンポスト」は生ごみをたい肥化する、生ごみ処理容器です。

2016年度から町田市と連携して、この段ボールコンポストの普及に努めています。その他展示会でも出展し、地域を育むコミュニティガーデンを目指しています。



有機園芸の実践

教育農場では、内部規定に基づいて、地域資源の有効活用や環境負荷の少ない資材の使用を行っています。ここでは、自然循環機能を活用した農業を実践し、それを持ち帰って食することを教育の一環としていることから、持続可能な食料生産のみならず、類似した方法で生産されたものの消費を促進することにもつながっています。



太陽光発電システム

A・B・D棟屋根に太陽の光を直接電気に変換して発電する太陽光発電システムを設置しています。無尽蔵ともいえる太陽光を使用し、有害なガスや騒音、振動を出さないので地球に優しい発電システムです。バス乗り場横の壁面にあるパネルには、現在の発電電力・本日の発電電力量が表示されます。また、自然エネルギーの普及を目指す市民参加の取り組みに協力して、体育館の屋根には多摩電力合同会社の太陽光発電システムも設置しています。



サンティアゴ巡礼プログラム

恵泉女学園大学は、環境教育の一環として学生をスペインに派遣しました。期間は2020年2月10日～3月25日を予定していましたが、COVID-19の普及により日程が短縮（3月8日まで）されました。目的は、スペインの世界遺産である"サンティアゴ巡礼の道"で気候危機を訴えることでした。リーダーの桃井和馬さん（本学教員）は、グレタ・トゥンバークさんの国連でのスピーチ（2019年9月23日）に触発され、このテーマに基づいて歩くことにしました。「Climate Crisis!」と書かれたTシャツを着て、ザックの壁の目立つところに旗を置き、現地の人に会って「Climate Crisis!」バッジを配り、スペインで気候変動の話聞き、世界の危機について一緒に考え、大学のウェブサイトのオンライン記事で報告を続けました。



多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会

2020年8月22日一般社団法人多摩循環型エネルギー協会が主催した「多摩市気候非常事態宣言記念オンライン講演会」に本学学生が登壇しました。一般社団法人多摩循環型エネルギー協会は本学教員が代表理事を務める組織であり、大学としても協力関係にあります。



有機農業の実践

不耕起栽培の実践や落ち葉や雑草などをたい肥による土づくりは、土中に長時間炭素を貯留することにつながり、温室効果ガスの排出削減に大きく寄与することが明らかになっています。また、本学の教育農場は夏休み期間中、畑を裸地としないのみならず、草マルチをした上に、雑草を生育させています。これは、夏の高温期におけるヒートアイランド現象を防止することにつながるのみならず、その場所で雑草を育てて、それお秋学期に畑に投入する資材として利用することで、農場への炭素貯留を高めることにもつながっています。



有機農業・有機園芸の実践

教育農場やキャンパス内のガーデンで化学肥料や化学農薬を使用しないこと、ポリマルチなどの農業用資材をしないことは、化学物質や農業用プラスチックによる水路への流出、海水汚染の抑制につながっています。また、落ち葉や雑草などの有機質資源を有効活用による土づくり、それをもたらす雑木林の適正管理は、豊かな腐植が育むことになり、それがいずれは海に流れ、海の豊かさをもたらすことになっています。森は海の恋人というように、武蔵野の地で落葉樹の落ち葉を活用した農業を実践することは海にも豊かさをもたらすことにつながっています。

里地・里山活動

森は海の恋人と言われているように、落葉樹や森を適正管理することで、森林土壌に腐植がつくられ、それが雨水とともに海に流れ、海に豊かさをもたらしています。



教育農場

有機栽培の教育用農地は、毎年 JAS の認証を受けています。教育ファームでは、化学肥料や農薬などの使用禁止物質を使用するだけでなく、地域資源の活用、生物多様性の保全、省力化栽培など、持続可能な農業のための規制を推進しています。ファーマーズマーケットでは、参加者に農業生産方法の説明を求め、有機栽培であること、環境に優しいこと、地元で生産されていること、環境に悪影響を与えないことを保証しています。



農場見学ツアー

学園祭やオープンガーデンなどの公共イベントの際には、農場や庭園のツアーを実施し、持続可能な農業や花壇の管理について一般の人々に伝えています。



里地里山プロジェクト 雑木林手入れ

恵泉女学園大学では 2010 年より里地里山プロジェクトと称し、町田市小野路地域の里山の保全活動を行っております。恵泉の職員・学生だけでなく、NPO 法人みどりのゆびの方々や町田市小野路などの地元の方々と一緒に取り組んでいます。

2020 年 12 月 24 日に山の斜面の低木や笹などの下草を刈っていく作業などの雑木林の手入れを行いました。恵泉里地里山活動の継続を通して、里山環境、生態系を維持・拡大するために、水田活動や雑木林の萌芽更新活動を行っています。



未来の街路花壇を考える会

「街路沿いの花壇に地域に自生する植物を導入する意義と可能性」をテーマとして、一般の方々を対象に公開学習会を行いました。

また、恵泉里地里山活動を通して、東京都レッドデータブック南多摩 NT ランク（準絶滅危惧）に該当する植物種（ホシクサ、*Eriocaulon cinereum*）が水田で再生したことを確認しました。これに加え、以前から生息・生育している IUCN レッドリストの LC ランクに該当するホトケドジョウ（*Lefua echigonia*）、シュレーゲルアオガエル（*Zhangixalus schlegelii*）および、国の NT に該当するミズニラ（*Isoetes japonica*）等の生物種が維持されるよう、無農薬での水田活動を継続しています。

Keisen Wild Rose Garden～野ばらの庭～

キャンパス内の一面にバラ属の野生種を主体とした Keisen Wild Rose Garden を作成しました。環境負荷の少ないオーガニック栽培を実践しており、以下の観点で取り組んでいます。

- ・「野生種のバラを、北半球の4つの地域（北アメリカ、ヨーロッパ、中国、日本）に分けて植栽する。」
- ・「学生/観賞者の健康や生物多様性など、身近なところから地球環境問題に配慮し、無化学肥料、無農薬で栽培する。さらに、将来的に無化学肥料、無農薬で栽培できるバラを地域社会へ提案することを視野に入れる。」
- ・「人と植物の自然史/文化の関わりを理解する学習のフィールドとする。」
- ・「遺伝資源として野生種のバラを保全する。」



竹チップ段ボールコンポスト

恵泉女学園大学ガーデンクラスルーム研究会が開発した「竹チップ段ボールコンポスト」は生ごみをたい肥化する、生ごみ処理容器です。このコンポストは生ごみを減らし、地球温暖化を防止しています。この活動を通して地方自治体や社会福祉法人「共働学舎」、多摩地区の NPO 法人等と協力しています。





学生自治団体「信和会」

1929年の学園創立から時をおかず、信和会という学生の自治会が発足しました。創立者河井道の教育方針は、学生の考える力を育み、自治協力の精神を育てることにありました。信和会活動には、聖書にある信愛による愛と奉仕の活動を、教職員と学生の総意で作り上げていくという、学園の大切な精神が反映されています。

大学の信和会も、このような学園創立以来の精神を引き継ぎ、学生たち自らが学園生活を有意義なものにするための活動であり、互いに支援しあうための組織です。学生主催行事の企画・構成の推進とともに、さらに学生たちが実りある学生生活を過ごせるよう、大学と学生間のパイプ役を務めます。



多摩市子どもみらい会議

SDGsをテーマに、「住み続けられるまちづくり」のために、多摩市内の小中学校の生徒たちが、積み重ねてきた学習成果を発信し、共有することを趣旨とした『令和元年度「多摩市子どもみらい会議」』の会場に本学が起用されました。

この会には、多摩市の教育委員も務めている本学の岩佐玲子先生（教育学）と教職の学生たちも参加し、会場設営や受付、子どもたちの誘導などにボランティアとして関わりました。



考える大学

本学は開学以来、「考えること、質問すること、批判することが学びの原点である」として、学生が真剣に考え、活発に議論する「考える大学」を宣言しています。これに基づいて、教員は自らの研究活動や学生の学習を指導しています。



内閣府少子化対策白書

恵泉女学園大学では、社会科学の中でもジェンダー研究を専門とする教員が 1990 年代から多くの委員会に参加し、日本政府の最重要課題の一つである少子化対策に貢献する国や地域の政策を立案・実施・監視しています。

長期フィールドスタディ タイ (チェンマイ)

長期フィールドスタディは、文部科学省インターンシップ表彰制度にて、教育効果の高い先進的モデルとして評価されるなど、これまで 20 年以上実施してきた歴史のあるプログラムです。タイでの 5 カ月間の教育プログラムは、現地 NGO の支援を受け、住民組織が活動する村などで、グローバル社会における地域や子ども・女性への影響や問題について具体的に学ぶことを目的としています。



生涯就業力 STEPⅢ (SDGs)

本学が 2016 年から取り組んできた「生涯就業力」をベースに、2020 年度には 2 年次必修科目「生涯就業力 STEPⅢ」として、SDGs について考え、議論する授業を展開しています。

持続可能社会論

本講義では環境・開発をめぐるグローバルな動向を踏まえ、持続可能性 (サステナビリティ) という概念が登場してきた背景を理解し、気候システム、エネルギー、食料と水、生物多様性などの観点から、地球レベルの経済-社会-環境システムが直面している問題の構造を把握します。そのうえで、持続可能な社会を築くためにモデルを構想し、その実現のために行動しようという希望が持てるようになることを目的とします。

卒業生・社会人のための「生涯就業力」講座

NPO 法人あい・ぽーとと共催で、卒業生および地域住民向けの『卒業生・社会人のための「生涯就業力」講座』を開催しています。

2020 年度はこれまでは東京都港区青山の子育てひろば「あい・ぽーと」を会場としていましたが、このコロナ禍のため、オンラインでの開催となりました。

